

# 経営比較分析表

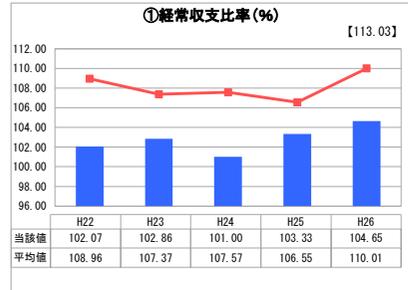
福岡県 川崎町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	60.99	96.14	4,737

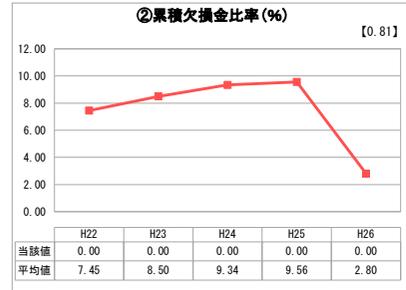
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
18,258	36.14	505.20
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
17,403	11.00	1,582.09

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成26年度全国平均

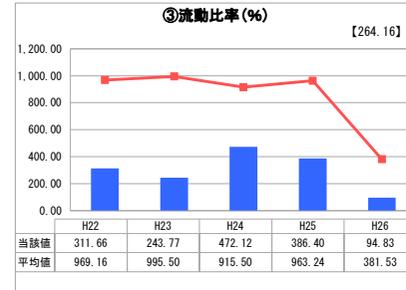
## 1. 経営の健全性・効率性



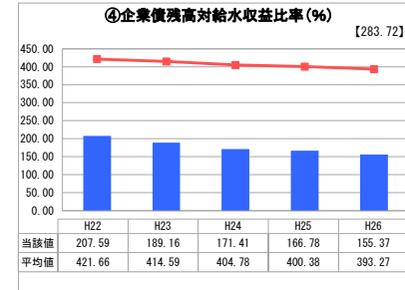
「経常損益」



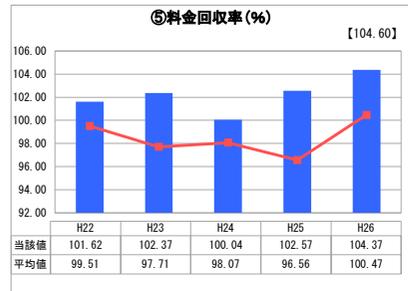
「累積欠損」



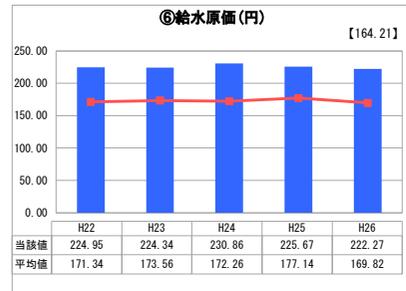
「支払能力」



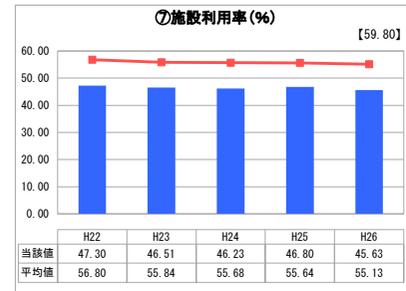
「債務残高」



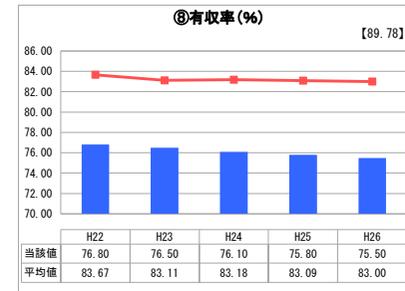
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

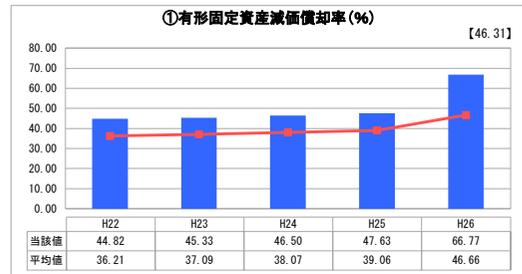


「施設の効率性」

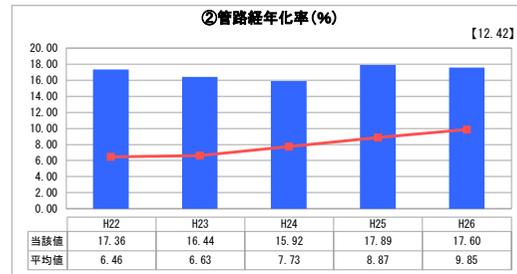


「供給した配水量の効率性」

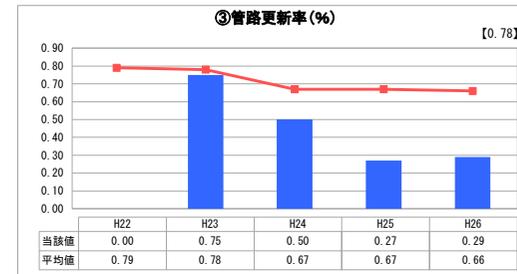
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金がなく、経常収支比率も100%を超えている。料金回収率は100%を上回っており、経営に必要な経費を水道料金で賄うことができています。また借入資本制度の廃止により、企業債が流動負債に計上され流動比率が前年度と比べ大きく変化している。これに伴いわずかながら100%を下回っているため、支払い能力を高めるための経営改善を図っていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年化率が高く施設の老朽が進んでいる。また、施設利用率、有収率のいずれの指標も類似団体平均を下回っている。無収水量の要因の多くが漏水であることを踏まえ、厳しい財政状況ではあるが、老朽管の更新等を計画的に行い、漏水防止対策を進めていく必要がある。

### 全体総括

現時点での経営の健全性、効率性はおおむね確保されているといえる。しかしながら、給水人口の減少等により、水道料金収入が減少するなかで、平成26年度、流動比率が100%を下回っていることから、更なる経費削減を努める。また、施設及び管路の更新には多額の財源が必要になることから、田川地区水道企業団とその構成団体で水道事業統合化の推進により、水道施設の更新整備を進めたい。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。